

### 37同会関東支部観桜会(その1)

#### はじめに

4月5日(土)、絶好の天候に恵まれ、市ヶ谷及び神楽坂において、37同会関東支部観桜会を行いました。その様子を2回に分けてお送りします。

来島さんの写真が掲載されましたが、そのうちに、長岡さんが撮った写真も日新のH/Pに載ると思っていますので、今回と次回の文章では、主としてwebサイズの写真を貼り付けます。

#### ○ 花見

地下鉄「九段下」駅 11:00 集合で、有志による花見を行いました。写真右は千鳥ヶ淵の桜とボートです。ボートの料金は、普段は30分500円ですが、観桜期は30分800円と高くなります。千代田区が経営していますが、いい財源になっていると思いませんか？

「九段下」駅から約15分で、「千鳥ヶ淵戦没者墓苑」に着きました。入ってすぐ左手に「引揚に伴う戦没者の永遠の平和記念碑」と「強制抑留者の尊い命を失われた方々の追悼慰霊碑」があります。前者は、昭和20年の敗戦で引き揚げた方々約320万人のうち、その途中で亡くなった20万人の方々を慰霊し、後者は、ソ連に抑留され、強制労働をさせられた57.5万人の軍人・軍属・民間人のうち、犠牲になられた約5.5万人を慰霊するものです。

さらに進むと、六角堂が現れ、ここで献花を行いました。写真は来島さん撮影のものを借用しました。千鳥ヶ淵戦没者墓苑には、大東亜戦争中に海外で亡くなった240万人の一般人を含む犠牲者のうち、35.8万柱以上が祀られています(小西さん、350万柱と申したのは勘違いで、桁が一つ多過ぎました。ごめんなさい)。

以前ネットで見ましたら、千鳥ヶ淵戦没者墓苑の「ヶ」は大きな「ヶ」が正しいと書いてありましたが、団体機関誌に小さな「ヶ」が使われていますので、こちらを使うことにします。その3月1日の機関紙に、昨年9月5日、小野田のサビエル高校2年生が、修学旅行の機会に参拝したと書かれています。実に立派な高校ですね。「サビレル高校」ではありません。



千鳥ヶ淵の桜とボート



六角堂(来島さん撮影)



(公財)千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会機関紙「千鳥ヶ淵」(3/1版)

同機関紙の他の頁に、防大生の「東京行進」が紹介されていました。昨年11月23日(土)から24日(日)にかけて、320名の有志が、防大から千鳥ヶ淵までの68kmを一人の落後者もなく歩き、千鳥ヶ淵戦没者墓苑と靖国神社を参拝した記事がありました。

私が防大に入った昭和40年には、すでに行われていましたので、かなり長い間、行われていることを知りました。因みに、今年入校するのは62期生ですので、陸軍士官学校の61期を越えました六角堂に向かって左側に、昭和天皇御製の歌碑があり、光の向きがいいので、こちらで写真を撮りました。当戦没者御苑が昭和34年3月28日に竣工し、その年の秋に歌碑が完成しました。「くにのため いのちささげしひとびとの ことをおもへば むねせまりくる」と刻まれています。



行進終えて参拝する防衛大学校学生

(公財)千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会機関紙  
「千鳥ヶ淵」(3/1版)



昭和天皇御製の歌碑



歌碑前で(左から増田・藤永・長岡・田鍋・武田さん、村川)

千鳥ヶ淵を後にして、靖国神社に向かいました。約12分後に、九段坂上の石鳥居をくぐりました。境内には、屋台がたくさん並んでいました。私の左には大村益次郎の銅像があります。来島さん撮影の写真(次頁右上)の中に、小さく見えるのがそうです。

明治26(1974)年に作られ、日本最初の西洋式銅像だといわれています。



靖国神社境内にて(小西さん、来島さんと合流)

御案内のように、大村益次郎は長州藩の医師であり、西洋学者であり、兵学者でした。日本陸軍の創始者といわれています。全国から集まった兵士の方言が分かりにくいと、意思の疎通を図るため長州閥の山県有朋が使っていた「～であります」などの長州弁が共通語として軍隊用語になりました。

能楽堂右の桜の標本木を確認し、御手洗を済ませ写真右下の神門(しんもん)をくぐります。靖國神社は、明治2(1869)年6月29日に建立された招魂社(しょうこんしゃ)を起源とします。

同社は、嘉永6(1853)年以降、明治維新、戊辰の役、日清・日露戦争、満洲事変、支那事変、大東亜戦争などの戦没者の霊を慰めるために建立されたもので、明治12(1879)年6月4日に靖國神社と改称されました。

246万6千余柱の英霊が祀られています。昭和天皇が最後の御親拝をされたのは、昭和50年11月21日であり、「いわゆるA級戦犯」が合祀されたのは昭和53年10月17日ですので、天皇の御親拝が終わった時期と合祀の時期については直接の関係はありません。

右下写真は、旧遊就館前の「パール博士顕彰碑」です。パール博士は極東国際軍事裁判でインド代表判事を務め、ただ一人、被告団全員を無罪とする意見書を出しました。この記念碑は、平成17(2005)年に建てられました。

博士は、「アメリカこそ開戦の責任者である」と主張し、戦後日本を訪れた際、広島原爆慰霊碑に記された言葉「過ちは繰り返させぬから」という日本人の自虐的な考えに激怒しました。

その後、前日の4日(金)に奉納相撲が行われたばかりの相撲場と神池庭園(しんちていえん。明治初期完成)を訪れ、南門から一次会場に向かい、12分後に到着しました。



大村益次郎銅像(来島さん撮影)



靖國神社「神門」(左側後ろ向きの人は武田さん)



パール博士顕彰碑(来島さん撮影)

## ○ 一次会(TO THE HERBS 市ヶ谷店)

一次会は13:00から15:00の間行いました。今回も、名古屋から参加していただいた来島さん始め女性4名に参加していただき、華やかな雰囲気となりました。

昼の宴は、長岡支部長の挨拶、吉川顧問の乾杯で開始されました。以下の写真については、皆さんのお名前注記は省略します。



「実は俺、Mさんが好きだったんだ」「そうだよな、Mさん可愛かったよな」「今、神戸にいるんだよな」「実は俺、Mさんに会いに岡山に行ったんだ」「え～っ？ほんとかよ！知ってたら俺も行ったよ」など、年寄りなので声が大きく、花見のせいで超満員となったお客さんに少し迷惑を掛けました。



私はベイスターズファンですが、同じくファンの田鍋さんとともに、古田さんに開幕スタート不調の不満をぶつけました。彼曰く、4月2日(水)の巨人戦で尚成が5点リードしたところで、新人投手に代えたのは誤りだということでした。新人には荷が重すぎるというのです。この試合は9対15で負けました。

田鍋さんが「古田が最も緊張したのはいつだい？」と聞きました。彼曰く、かなり早く一軍出場がかない、ノーアウト、ランナー一塁の場面で代打を命ぜられた自分は、サード長嶋、ファースト王の状況下でバントを命ぜられ、ツー・ナッシングとなったところで、スリー・バントを命ぜられたときだといいます。投手の名前は忘れたが、有名な投手だったといいます。スリー・バントは失敗し、翌日から二軍落ちで(その後復帰します)、毎日バントの練習ばかりをやらされたそうです。



女性の隣の席を占めるのはたいへんで、その争奪戦が繰り広げられました。



14:30ころ小西さんが、米国のデンバーに向かってこっそり出発しました。米政府関係者との会議に参加するそうで、大きな仕事をされているのに感心した次第です。

最後に、久田副支部長の乾杯で一次会を締めました。



花見と一次会に参加してくれた皆さん、有難う。  
次回は二次会の模様をお送りします。

(続く)

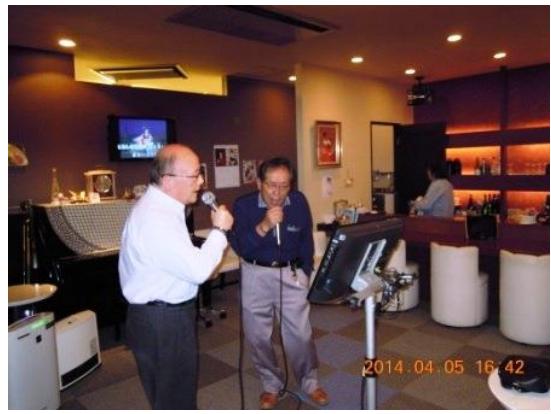
### 37同会関東支部観桜会(その2)

4月5日(土)、絶好の天候に恵まれ、市ヶ谷及び神楽坂において、37同会関東支部観桜会を行いました。今回は、吉川顧問のホームグラウンド神楽坂「おきな」における二次会の様子をお送りします。私こと実は、一次会で飲み過ぎ、二次会の記憶がかなり欠落しています。総武線で「秋葉原」を通り過ぎて「東船橋」まで行ったり、つくばエクスプレスで「流山セントラルパーク」を通り過ぎて「柏たなか」まで行ったりで、我が家に帰り着くまでがたいへんでした。実に楽しい二次会でした。

写真右は、「おきな」の翁の皆さんです。これを撮った記憶はないのですが、私のカメラで撮っていただいたのは、どなたでしょうか？

以下は、一刻も休む間もないカラオケの競(狂)演の状況です。皆さんまだまだ若いのです。これも3名の女性が参加していただいたお蔭だと感謝しています。男性だけだと、こうは盛り上がりません。女性の皆さん、有難う！





写真下を見て気付いたのですが、**武田さん**と**藤永さん**は歌っていなかったようです。聞くばかりですと、たいへんだったのではないのでしょうか？お疲れ様でした。

女性陣のパフォーマンスはすばらしく、やはり37同会本部同様、関東支部の二次会成功の鍵も、女性をなるべく多く交えた「カラオケ」だと感じた次第です。





井上(滋)さんのメールにありましたが、「前橋ブルース」を吉川さんに教わっているのが、写真右です。この情景は、かすかに記憶に残っています。井上さんは知らなかったようですが(もちろん、私も知りませんでした)、井上さんの御当地ソングですから、この曲を次回の37同会までに猛特訓をして完璧に覚えて来られることでしょう。期待しています。



「おきな」にて、前列左から中村、磯部、吉川、来島、村川、後列左から長岡、藤永、倉田、田鍋、武田、井上

写真上は、解散前に撮られたものですが、まったく記憶にありません。山本さんが写っていないので、彼が撮ってくれたものと分かりました。

井上(滋)さんのメールでは、長岡支部長が「この会が存続するか否かは、皆さんが参加してくれるか否かにかかっている」と述べたそうで、「皆様、できる限り参加して“37”の輪を広げましょう」と書かれています。

まったくそのとおりだと思います。皆さん、御協力のほどをよろしくお願いいたします。

(終わり)